

ASAGAO通信



ポーランドの最新情報を現地からお届けします

JUNE 17, 2020, ISSUE 12

<https://asagao.pl>
info@asagao.pl

デンマーク・ポーランド間の 海底ガスパイプライン建設プロジェクト

○バルト海パイププロジェクトとは

今月8日にイタリア企業のSaipem社は、デンマークとポーランドを結ぶ**バルト海海底ガスパイプライン**を建設する契約にサインした。

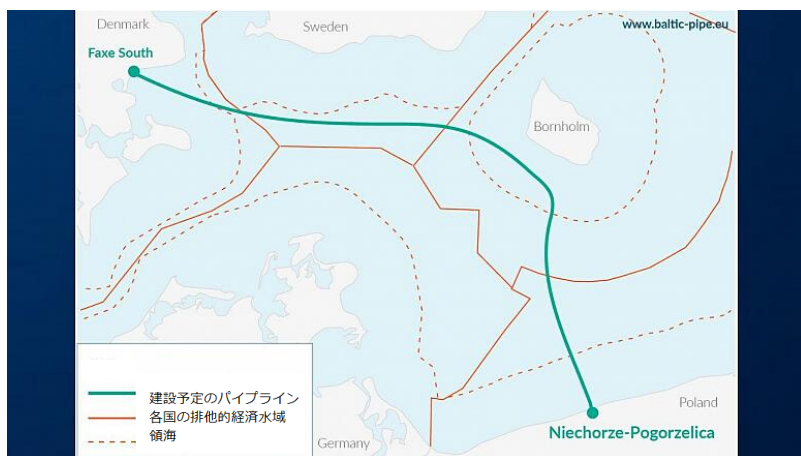
この取引はおよそ2億8000万€(日本円でおおよそ340億円)に値する。

EU全体としては、すでにこのバルト海パイプラインプロジェクトに約2億1500万円を投資している。

○デンマーク経由でノルウェーからポーランドへ

このパイプラインプロジェクトは、北海のノルウェー浅瀬にある天然ガス田とポーランド北部のNiechorze-Pogorzelicaを結ぶ。

契約を結んだSaipem社は、パイプラインの建設は二酸化炭素排出量の削減とポーランドの大気汚染の改善に貢献すると述べている。同パイプラインは、**2020年後半の着工予定**だ。



Baltic Pipe Project HPより

○ロシアへの天然ガス依存をなくせるか

新しいパイプラインで取引できるガスの容量は毎年100億m³にもなり、これはポーランドの国内需要を超えている。ポーランドは天然ガスの国内需要のほとんどをロシアに依存している。しかし、パイプライン建設によってこの依存を減らすことができる、とポーランド政府は考え、2022年に期限が切れるロシア企業との契約を更新しないよう措置を講じている。

また敷設に関わる建設業者は、「既にドイツーロシア間にひかれいる「Nord Stream 2」というパイプラインと今回建設するバルト海パイプラインは大きく異なる」と言う。ポーランド政府の声明からは、この新しいパイプラインによってポーランドがヨーロッパのガスハブになるとする意図もくみ取れるからだ。

ウクライナ等、他の中央および東ヨーロッパの国々も、その資源供給をロシアに依存しているが、これを機に依存脱却が期待されている。

キャビアの隠れた生産国、ポーランド

多くの方が「ポーランド産キャビア」と聞いてもピンと来ないだろう。しかしポーランドは世界でも有数のキャビア生産国である。

○以前はロシアとイランが主要な産地だったが...

今までキャビア生産は、主にカスピ海に面するロシアとイランによって独占されていた。しかし現在のキャビアのほとんどは養殖されたチョウザメのため、多くの場所で養殖することが可能となった。

最大の生産国は、年間100トンを生産する中国(6つの生産会社の合計)であり、次に続くのが60トンのロシア(15つの生産会社の合計)だ。

○ポーランドのANTONIUS CAVIAR社とは

世界にあるキャビアを扱う会社の中でも特徴的なのが、ポーランドで創業を開始した「ANTONIUS CAVIAR」である。同社は世界のキャビア市場400トンのうち、5%の生産量を占めている。2020年には25トンの生産が予測されており、一企業がこの量を生産するのは上述した世界の国々の生産量と比較しても、大規模であることが分かるだろう。

会社はポーランドの中央、KONIN(コニン)のGOSŁAWICE(ゴスワヴィツェ)を拠点としている。近くに産業汚染されていない澄んだ川に3つの養殖場を構え、なるべく自然に近い環境でチョウザメを育てることができる。

○ミシュランシェフがうなる味わい

国際見本市にて、同社の生産するキャビアに多くのシェフが感銘を受けるという。現在、同社が生産した商品は、西ヨーロッパ、アラブ首長国連邦、アメリカに輸出されている。ポーランド市場での流通はごく一部であり、高級ポーランド料理店で提供されるという。

世界三大珍味のひとつであり絶品であるというポーランド産キャビアを、日本で味わえる日を待たずにはられない。



Antonius Caviar 公式HPより